

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0290100163		
法人名	社会福祉法人 徳誠福祉会		
事業所名	グループホームおきだて 1階		
所在地	青森市富田5丁目7-21		
自己評価作成日	令和5年8月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	令和5年10月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的なアットホームな雰囲気の中で過ごしていただけるよう、普段から入居者と職員との関わり合いを大切にしている。
 入居者の気分転換や季節を楽しんでいただけるよう、季節に合った行事等を企画して取り組んでいる。
 コロナウイルスも5類となり、緩和されてきたので、地域のゴミ拾いを行ったり、家族との面会や交流のある行事を少しずつ再開して、地域や家族との関わりを大切にしていける。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは青森市内の住宅地に立地しており、町内の清掃活動に職員と利用者が一緒に参加する等、日頃から地域住民との交流を図っている。
 職員は利用者が家庭的な環境の中、安心して自立した生活を送ることができるよう、一人ひとりを尊重した支援に努めている。
 また、コロナの感染状況も考慮しながら、利用者の楽しみや気分転換につながるような支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の共有理念を玄関に掲げ、職員が共有できるようにしている。	「家庭的で安心・安全な生活」「自立した生活」「人間として尊厳のある生活」という理念を掲げ、玄関に掲示しており、職員の共有が図られている。職員は理念を理解し、地域との交流を大切にしながら、日々のサービス提供場面に反映させている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者による町内のゴミ拾い活動を再開して、新たに地域とのつながりを持っている。	町内会に加入し、回覧板等で情報を得たり、運営推進会議のメンバーである町会長を介して、ホームの情報を発信している。また、毎月の町内清掃活動に職員と利用者が一緒に参加する等、日常的に地域住民との交流を大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じ、認知症の方々への理解を図っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を行うことで、入居者の状況や活動内容を報告したり、問題点等を話し合い、サービスの向上に努めている。	2ヶ月に1回、対面での運営推進会議を開催し、町会長や町会代表者、地域包括支援センター職員等がメンバーとなっている。会議では、ホームの状況や活動内容を報告し、意見や感想、労いの言葉をいただきながら、より良いサービス提供のために活かせるように取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の議事録提出や、待機者数を定期的に報告している。	運営推進会議には地域包括支援センターの職員が参加している。市担当課には運営推進会議の会議録等や自己評価及び外部評価結果等を提出している。また、市からメール等で各種情報提供がある他、課題解決に向けて連携を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に1回、身体拘束廃止委員会を開催し、研修も行って身体拘束がないように学び、日々の介護をしている。	マニュアル等を整備している他、3ヶ月に1回委員会を開催し、同時に研修を行い、身体拘束の内容や弊害について理解を深めている。また、近隣にある法人施設の所長が地区の防犯委員であり、地域からの協力が得られる体制である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加し、参加した職員は伝達研修を行い、高齢者虐待について勉強をして、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し、その後勉強会を行い、職員が権利擁護に関する理解をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際はわかりやすく丁寧に説明しながら行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月新聞や入居者の近況を報告し、面会の際にも状況報告しながら家族の意見を聞いて、日々の生活に反映させている。	意見箱の設置や苦情受付ポスターの掲示等を行っている他、家族等にホーム便りを送付して利用者の暮らしぶりを報告し、意見を出しやすい環境作りに取り組んでいる。また、職員は日々のコミュニケーションの中で利用者の話を十分に聞き、意見等の把握に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のユニット会議やリーダー会議にて意見を出し合っている他、年1回の職員面談も行き、反映させている。	ユニット会議やリーダー会議、申し送り、年1回の面談等で、職員の意見を聞く機会を設けている。職員から要望があった備品の購入等も実現し、意見を反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回の職員面談や日々の勤務状態を把握し、働きやすい環境作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修の機会を確保し、全員が研修に参加できるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	圏域の会議に出席し、他事業所の職員との交流や情報交換できる場に参加している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者とのコミュニケーションを図り、気持ちを引き出せるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が面会に来た際、入居者の現状を伝え、信頼関係を深めるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者の現状を見定め、職員全員での連携を図り、かかりつけ医の意見を参考にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者と日々コミュニケーションを図りながら、個性や得意な事を見つけ、できることは行っていたり、できない事はサポートして支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の日々の様子を毎月の近況報告や家族面会時に伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の家族や知人が面会した際、安心してもらうよう、会話のお手伝いをしている。	利用者がこれまで関わってきた人や馴染みの場所等は、日々のコミュニケーションの中や家族からの情報で把握しており、電話や手紙のやり取りを支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握し、手作業、レクリエーション等をして交流している。トラブルになりそうな時は職員が間に入り、対応している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も、家族からの相談等、必要に応じて対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者と個別に話をし、思っている事や要望を聞いて、気持ちを察するように努めている。	利用者の言動や表情の観察、家族からの情報等により、思いや意向の把握に努めている。また、把握した情報は申し送りやタブレット端末を活用して共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者のプライバシーに配慮しながら、家族から生活歴の情報収集を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを把握し、生活の中で本人ができる事を職員間で見つけるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者のケアについて、定期的にユニット会議で話し合い、介護計画を作成している。	介護計画は日々の関わりの中で把握した利用者の意見や要望、思いを反映させている他、家族等からも意見を聞き、職員間で話し合いの上、作成をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録、申し送りノート等を活用し、情報共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々で状況が変わっていくため、柔軟なサービスができるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	状況の変化に対して柔軟に取り組み、必要に応じてサービスを受けられるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診状況を把握し、必要に応じて家族と相談しながら専門医受診を検討し、対応している。	入居時のアセスメントでこれまでの受療状況を把握している他、入居後の受診についても利用者や家族と話し合い、意向に沿った受診ができるように支援している。また、ホームの看護職員が通院介助をしている他、家族の協力も得られている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の持病等を把握し、日常的に変化する体調を報告して対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院と施設の連携を強化し、より良い関係になるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設ではどこまでできるのか家族に伝え、理解していただき、終末期の過ごし方等、本人や家族と話し合うようにしている。	利用者の重度化や終末期の対応について、指針を作成してホームの方針を明確にしておき、医療機関や家族との連携体制を整えている。また、ホームには看護職員がおり、利用者の日常的な健康管理を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時の対応については、緊急時対応マニュアルを作成し、それに従って行動するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協体制度を築いている	昼夜を問わず対応ができるよう、入居者と職員全員で水害時や火災の訓練をしている。	具体的な避難誘導策を作成しており、夜間想定での避難や水害時の垂直避難、火災時の避難訓練を行っている。また、災害発生時に備えて、食料や飲料水、発電機等を用意している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人を尊重し、尊厳を守ることを心がけた声かけを行っている。不適切な言動がみられた場合は、職員間でその都度注意している。	職員は利用者一人ひとりの尊厳を守る支援を心がけ、言動を否定したり、拒否することのないようにしている。また、守秘義務や個人情報情報の取り扱い等に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症があっても周りとの関わり方を考え、その人を尊重し、今できる事を見つけるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペース大切にしを、なるべく希望に沿って過ごしてもらうようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った衣類の交換等は家族に協力してもらい、季節に合った物を選んで着ている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの状態に合わせ、食事形態やもやしの下処理の準備を手伝ってもらっている。	食事は利用者の好みや禁忌食等に配慮しており、食事形態や盛り付け、彩り、食器類も工夫している他、お寿司等の行事食や職員手作りのおやつも提供している。また、利用者の状況や意思に応じて、調理の準備や後片付け等を職員と一緒にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりが食べる量や水分量を把握し、毎日記録に残している。糖尿病がある方には摂取量の管理を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの能力に応じ、一部介助や声かけを行っている。難しい方には職員が介助している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	できるだけトイレでの排泄を心がけているため、トイレ誘導や声かけを行っている。	利用者一人ひとりの排泄パターンを観察し、記録している。また、利用者の状態に応じた排泄支援について、随時話し合いを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の把握、毎日の体操や運動を習慣にし、排泄チェックをして、その日の状態を確認している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	入浴は週2回行っており、その日の本人の状態に応じて入浴している。	利用者個々の好みや習慣に配慮し、基本的に週2回は入浴できるよう、支援に取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	介助が必要な入居者に対し、座りっぱなしにならないよう、ソファに移動してもらったり、居室のベッドに横になっていただく等、安心して休息、睡眠がとれるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報に関しては、薬情や看護師から指示をもらって行っている。服薬の際は誤薬がないよう、職員2人で確認して服薬している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者一人ひとりの興味のあるレクリエーション等を行い、気分転換等の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	外出行事の再開もあり、外に出る機会を少しずつ増やすようにしている。入居者の希望に沿えるよう、職員が工夫している。	コロナの感染状況を確認しながら、近隣の散歩や車での外出支援に取り組んでおり、できる限り、利用者の楽しみや気分転換につながるよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所の中で、入居者一人ひとりのお小遣いを預かっているため、必要な物があればその中から購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの手紙が届いた際は、本人に渡ししている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者に快適に過ごしてもらえるよう、室温・湿度・テレビの音量や窓からの光等、常に調節している。季節毎に壁の装飾を変えている。	家庭的な雰囲気の中、利用者が居心地良く過ごせるよう、ホーム内の明るさや温度・湿度等、適度となるように調整している。また、ホーム内は、利用者が季節の変化を感じられるような装飾を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士の相性を考えた席順で座っていたり、ソファに座り、ゆったりとテレビを見ることができるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際は入居者の馴染みの物を持って来てもらい、写真を飾っている。	入居時にできるだけ馴染みの物の持参を働きかけており、居室には使い慣れた小物や家族写真等を飾っている。また、持ち込みが少ない場合は利用者の意向を聞きながら、手作りの作品を飾る等、その人らしい居室作りを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下を歩行する際やトイレ、洗面所、風呂等、安全に使用できる環境を整えている。		